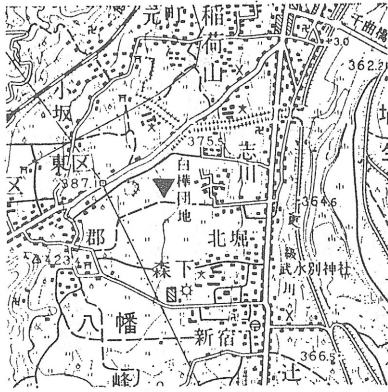


長野・北稻付遺跡

- 1 所在地 長野県更埴市大字八幡字北稻付
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)七月
- 3 発掘機関 更埴市教育委員会
- 4 調査担当者 佐藤信之
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 一〇世紀～一一世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(坂城)

川扇状地上に営まれた遺跡で、東方約1kmには千曲川が北流している。周辺には弥生時代から平安時代の遺跡が点在しており、八幡遺跡群として捉えられている。一九八一年より実施されている県営ほ場整備事業に伴い発掘調査が行われた。その結果、平安時代の住居跡一棟が検出され、一〇世紀から一一

世紀に比定される土師器・須恵器・灰釉陶器それに銅製の帯金具、多数の木製品などが出土している。また八点の墨書土器が検出されており、うち四点は「春」と判読できる。木簡は、かつて沼であったと推測される湿地帯の岸より、多数の木製品と共に出土したものである。



周辺の遺跡からは、平安時代前半と思われる瓦や瓦塔が発見されており、青木庵寺という名称が与えられている。なお本遺跡の東二〇〇mほどにあたる青木遺跡からは、一九七〇年の発掘調査の際に掘立柱建物跡群なども検出されている。

8 木簡の积文・内容

(1) 「廿三」

130×35×4 011

9 関係文献

更埴市教育委員会『北稻付遺跡』(一九八四年)

(佐藤信之)